

地農宮國

室進推編再

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	1 躍動感あふれる産業の町・雄武 地域産業の振興と雇用の創出	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
11020050	基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A 地域力の向上（活力・生産・協働）のために最優先して行うべき事業	事業期間 平成28年度～令和9年度
	単位施策	1 土地基盤の充実			受益面積 3,663ha 受益戸数 48戸
事業名	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区		担当課	国営農地再編推進室	事業量 区画整理 3,663ha（うち換地面積2,870ha）
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町	関係課	産業振興課
事業指標	①換地計画策定数 ②促進費活用面積 ③基金積立額		数値目標	①5計画 ②129ha ③年50,000千円	
					事業費 14,620百万円
					負担金支払予定時期 令和10年度

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
対象工区 北幌内、幌内、北雄武、雄武、上幌内地区 事業内容 ・換地計画作成 ・確定測量（道実施） ・換地処分 ・促進費の助成 ・基金積立				換地計画作成 57,000千円 確定測量（北海道実施）		換地計画作成 42,500千円 確定測量（北海道実施） 換地処分 12,500千円 促進費の助成 38,700千円		換地計画作成 36,000千円 確定測量（北海道実施） 換地処分 14,000千円 促進費の助成 38,700千円		換地計画作成 31,000千円 確定測量（北海道実施） 換地処分 9,000千円 促進費の助成 38,700千円 基金積立 50,000千円		換地処分 15,000千円 基金積立 50,000千円	
				年度別数値目標		①5計画 ②129ha		①3計画 ②129ha		①2計画 ②129ha		①1計画 ②129ha ③50,000千円	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	0	0										
	道支出金	302,140	14,598	78,285	14,598	76,285		71,285		61,285		15,000	
	地方債	0	0										
	その他	69,660	5,940	17,415	5,940	17,415		17,415		17,415			
	一般財源	100,000	0							50,000		50,000	
合 計 (千円)		471,800	20,538	95,700	20,538	93,700	0	88,700	0	128,700	0	65,000	0
特 定 財 源	国営緊急農地再編整備事業 雄武丘陵地区換地計画業務 委託金 農業経営高度化支援事業補助金 受益者分担金（促進費分）		評 価 ・ 実 績	実施内容	換地計画作成(一時利用地の指定) （北幌内、北雄武、雄武） 換地計画書作成（上幌内） 確定測量（北海道実施）（上幌内） 促進費助成								
				評価結果	A－継続／現状維持								

事業名	国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵地区	評価者 管理職 職氏名	国営農地再編推進室	苦米地 幸二
		評価者 作成者 職氏名	国営農地再編推進室	苦米地 幸二

令和5年度実施
令和6年度評価

■事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）	国営土地改良事業受益者		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	換地計画	
抱える課題やニーズ	耕作放棄地の発生、労働力不足				
どのような状態になることを目指したのか（意図）	国営土地改良事業（区画整理）の実施により、農地の大型化及び集積・集約化を促進し、効率的な圃場を造成し、労働時間の短縮や生産コストの削減など農業の生産性の向上を図る。		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
			① 換地計画策定数	目 標 年 度	令和5 年度
目 標 値	5 計画				
実 績 値	4 計画				
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的	区画整理等の実施により、効率的で生産性の高い農地を形成、農業生産の基盤整備を推進し、あわせて地域の中核となる担い手農家を育成を図ることにより、農業の振興が図られる。		② 促進費活用面積	達 成 度	80.0 %
				目 標 年 度	令和5 年度
				目 標 値	129 ha
				実 績 値	44 ha
				達 成 度	34.1 %
内容（どのような手段で何を行ったか）	換地委員会の開催	一時利用地の検討及び確定、換地計画書の検討のため各工区の換地委員会を開催した。			
	関係資料（会議資料等）の作成	換地委員会等開催に係る資料作成のため、専門知識を有する業者に業務委託を行った。			
	促進費の助成	国営土地改良事業の工事の進捗を図るため、春先から工事を実施することにより一番草を収穫できない農家に対して、補填等を行うために補助金の交付を行った。			

■事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	☐	義務的なもの	区画整理による農地の大型化等、農業の基盤整備を進めることにより
必要／概ね必要	☐	全部	農業の振興を図るものであり、本町の農業の持続的発展を図る上で必要不可欠な事業である。
／課題あり	☐	一部	

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	各種関係資料の作成を、専門的知識を有している業者に委託を行って
有効／概ね有効	☐ 達成	いることにより、事業を進めるために必要な各種会議等を適切に開催する
／課題あり	☒ ほぼ達成	ことができている。
	☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	専門的知識を有する業者に業務委託を行ったことにより、時間短縮・作業の軽減が図られており、計画どおり事業が進められている。
効率的／概ね効率的	☐ 事業費抑制	
／課題あり	☐ 人員削減	
	☒ 時間短縮・作業軽減	
	☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平	判断の理由	事業参加（工事実施）の当たっては、受益者負担があることから、公平と判断する。
公平／概ね公平	☒ 受益者負担がある	
／公平でない	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る	
	☐ その他	

■その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
促進費の活用により、春先から工事に着手できる圃場が増加しており、着実な事業推進が進められている。 また、農地の大型化等により労働時間の短縮や生産コストの削減等生産性の向上が図られている。		

今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持		
本町の農業の持続的な発展を図るためには、基盤整備を進めることが必要であり、このことが経営基盤の強化、農業の生産性の向上に繋がることから継続して進めることが必要である。		

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 後 期 実 施 計 画 書

事業NO,	政策目標	1	躍動感あふれる産業の町・雄武 地域産業の振興と雇用の創出	会 計 区 分	一般会計	全体計画（後期実施計画期間外の期間を有する場合のみ）
11020070	基本施策	1	農業の振興	事業優先度	B	
	単位施策	1	土地基盤の充実		基本施策（後期）を実現するために行うべき事業	
事 業 名	公用車導入事業			担 当 課	国営農地再編推進室	
事業期間	令和5年度～令和9年度	事業主体	雄武町	関 係 課	産業振興課	
事業指標	公用車リース台数			数 値 目 標	1台	

全 体 計 画 事 業 内 容				令和5年度 事業内容		令和6年度 事業内容		令和7年度 事業内容		令和8年度 事業内容		令和9年度 事業内容	
平成28年度から着手となった国営緊急農地再編整備事業において、事業上、受益者と頻繁な打合せ等を行うにあたり車両を確保（リース）する。				公用車リース 1台 自動車損害共済分担金		公用車リース 1台 自動車損害共済分担金		公用車リース 1台 自動車損害共済分担金		公用車リース 1台 自動車損害共済分担金		公用車リース 1台 自動車損害共済分担金	
年度別数値目標				1台		1台		1台		1台		1台	
		計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費	計画事業費	実績事業費
財 源 内 訳	国庫支出金	3,170	574	634	574	634		634		634		634	
	道支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他	0	0										
	一般財源	0	0										
合 計 (千円)		3,170	574	634	574	634	0	634	0	634	0	634	0
特 定 財 源	国営緊急農地再編整備事業 雄武丘陵地区事業推進調整 等委託金		評 価 ・ 実 績	実施内容	※簡素化対象事業								
				評価結果	A－継続／現状維持								

事業名	公用車導入事業	評価者 管理職 職氏名	国宮農地再編推進室	苫米地 幸二
		評価者 作成者 職氏名		

令和5年度実施
令和6年度評価

■ 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

誰、何が（対象）		望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	リース車両	
抱える課題やニーズ		指標（指標計算式／解説）	目 標 値 及 び 実 績 値	
どのような状態になることを目指したのか（意図）		①	目 標 年 度	令和5 年度
			目 標 値	1 台
			実 績 値	1 台
			達 成 度	100.0 %
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果＝目的		②	目 標 年 度	令和5 年度
			目 標 値	
			実 績 値	
			達 成 度	#DIV/0! %
内容（どのような手段で何を行ったか）				

■ 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

	☐	義務的なもの	
必要／概ね必要	☐	全部	
／課題あり	☐	一部	

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

	設定した目標値の達成状況	
	☐ 達成	
有効／概ね有効	☐ ほぼ達成	
／課題あり	☐ 下回る	

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

	判断の理由	
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
効率的／概ね効率的	☐ 時間短縮・作業軽減	
／課題あり	☐ その他	

（4）事務事業の公平性

	判断の理由	
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
公平／概ね公平	☐ 受益が一部に偏る	
／公平でない	☐ その他	

■ その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）

■ 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B：ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		

今後の展開方向 (Action)			
継続／現状維持			

※展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止